

令和6年度小平市立第六小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

「知識・技能」と「思考・判断・表現」共に全国平均より下回っていた。「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の方が正答率が高かった。多くの事項の正答率が全国平均より低かった。特に「知識・技能」に関わるものの正答率が低かった。

課題

「知識・技能」に関する力の定着に課題があることが分かった。特に、漢字の読み書きに関する問題の正答率が非常に低かった。問題2二のような問題の条件に合わせて書く力を付けさせる必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

引き続き「知識・技能」に重点を置いた指導を行う。漢字の習熟、主述の関係を捉えるなどの練習を継続的に行い、基礎的な力をしっかりと身に付けられるようにする。デジタルドリルの活用、定期的な漢字テストの実施などを行う。

文字数を指定したり、条件を指定したりした文章を書くことに慣れる指導を2学期以降実施する。

【算数】

状況の分析

「知識・技能」は、全国平均より上回っているところがあったが、「思考・判断・表現」の正答は全国平均をかなり下回っていた。多くの事項の正答率が全国平均より低かった。特に「思考・判断・表現」で、理由を文章で答える問題の正答率が低いのが顕著であった。

課題

「思考・判断・表現」で、問題文を読みグラフや図から問題場面を把握し、自分の考えを文章で表現する問題の正答率が非常に低かった。問題4(3)のような「速さ」の単位量あたりの求め方を言葉で記述する力が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

自分の考えを記述で答える問題が苦手であるということである。児童が問題場面を把握し、「思考・判断・表現」する問題について自信をもって、答えを導き言葉や文章にする力を身に付けることが大切である。さらに、グラフなどを見て解き方を考えて記述する問題に対して、自分の考えを説明し合う授業を行い「思考・判断・表現」する力を養うようにしていく。

今年度も引き続き、学んだことを活用する場面設定や教材教具を用いて学習を定着させることを行っていくことが必要と思われる。習熟に合わせてながら問題を工夫し、正しい算数の言葉を授業中に使用させることを心がける。

【質問紙】**状況の分析****課題**

国語・算数への苦手意識を感じている児童が一定数いる。(4割程度)英語の授業は大切だと7割の児童が感じている一方、好きではないと答えた児童は5割もいた。

学習環境やデジタル機器に触れている時間等は回答状況にばらつきがあり、個人差が非常に大きかった。

学習への苦手意識から関心、意欲が低下している傾向がある。基礎基本の学習内容を理解させ、しっかりと定着させていくことができるように、手立てを考えていく必要がある。

学習状況については、日々の生活指導や授業の中で継続した指導を行うとともに、保護者と結果を共有し改善を図ることが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

算数科においては習熟度別の授業を生かし、学習内容を正しく理解させることを積み重ねていく。また理解したことを定着させられるように、練習問題に取り組む機会を確保する。それを繰り返すことで、ワークテスト等の結果だけでなく児童自身の実感として「学習内容が分かる」と感じられるようにしていく。国語科においては、漢字学習の行い方を見直していく。練習した成果が表れていくような学習過程を工夫していく。

読書する時間の確保、デジタル機器に触れる時間の調整など、興味関心の高さに関係なく様々なことに触れたり学んだりすることができるように指導していく必要がある。折にふれて生活習慣を見直すことができるように、計画して実施していく。